新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
（高等学校　芸術科（美術，工芸））

文化庁
参事官（芸術文化担当）付 教科調査官
文部科学省
初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

平田　朝一

目次

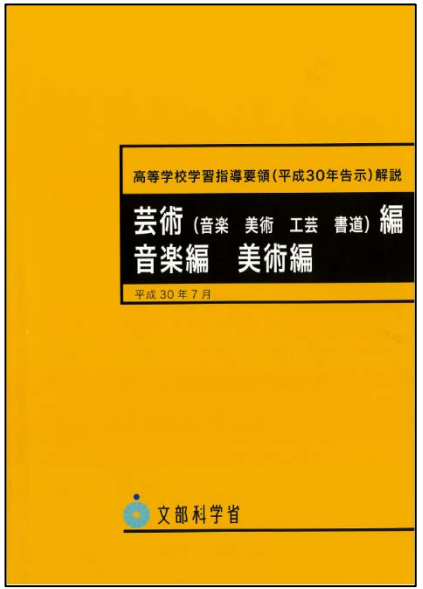
1. 新学習指導要領の改訂のポイント

2. 芸術科（美術，工芸）における学習評価

3. 指導と評価の一体化のポイント

（1）目標の改善

（2）内容の改善



（1）目標の改善

育成を目指す三つの柱

美術

(1) 知識及び技能

(2) 思考力，判断力，表現力等

(3) 学びに向かう力，人間性等

（1）目標の改善

芸術科の目標

芸術の幅広い活動を通して，各科目における見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

（1）芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

思考力，判断力，表現力等

（2）創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

学びに向かう力，人間性等

（3）生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

（1）目標の改善

美術Ⅰの目標

美術の幅広い創造活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，美的体験を重ね，生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

（1）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。

思考力，判断力，表現力等

（2）造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり，価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

学びに向かう力，人間性等

（3）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

（1）目標の改善

美術Ⅰの目標の柱書

美術の幅広い創造活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，美的体験を重ね，生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）目標の改善

美術Ⅰ

造形的な見方・考え方

美術の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

感性や美意識，想像力を働かせる

対象や事象を造形的な視点で捉える

自分としての意味や価値をつくりだす

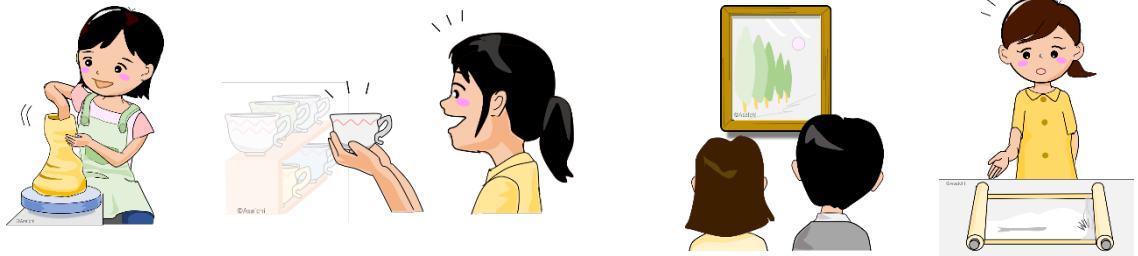
美術の本質に迫る学習

（1）目標の改善

美術Ⅰ

生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力

　生徒一人一人が感性や美意識，想像力を働かせ，造形的な視点を豊かにもち，自分との関わりの中で美術や美術文化を捉え，生活や社会と幅広く関わることができるようにするための資質・能力



（1）目標の改善

美術Ⅰ

(1) 生きて働く**知識・技能**の習得

(2) 未知の状況にも対応できる **思考力・判断力・表現力等**の育成

(3) 学びを人生や社会に生かそうとする **学びに向かう力・人間性等**の涵養

造形的な視点に関すること

創造的に表す技能に関すること

発想や構想に関すること

鑑賞に関すること

主体的に創造活動に取り組む態度，生涯にわたり美術を愛好する心情，感性を高めること，美術文化との関わり，生活や社会との豊かな関わり

教科の目標を三つの柱に基づき整理

（1）目標の改善

美術Ⅰの目標

知識及び技能

（1）　対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。

（1）目標の改善

美術Ⅰの目標

思考力，判断力，表現力等

（2）造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり，価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

（1）目標の改善

美術Ⅰの目標

学びに向かう力，人間性等

（3）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

（2）内容の改善

新学習指導要領　美術Ⅰ「A表現」

（１）絵画・彫刻
ア　感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想
イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

（２）デザイン
ア　目的や機能などを考えた発想や構想
イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

（３）映像メディア表現
ア　映像メディアの特性を踏まえた発想や構想
イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

「A表現」の項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理

（2）内容の改善

新学習指導要領　美術Ⅰ「A表現」

（１）絵画・彫刻
　ア　感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想
　イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

（２）デザイン
　ア　目的や機能などを考えた発想や構想
　イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

（３）映像メディア表現
　ア　映像メディアの特性を踏まえた発想や構想
　イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

新学習指導要領　美術Ⅰ「B鑑賞」

（１）鑑賞
　ア　美術作品などに関する鑑賞
　　(ｱ) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした絵画・彫刻に関する鑑賞
　　(ｲ) 目的や機能などを考えたデザインに関する鑑賞
　　(ｳ) 映像メディアの特性を踏まえた表現に関する鑑賞
　イ　美術の働きや美術文化に関する鑑賞
　　(ｱ) 美術の働きに関する鑑賞
　　(ｲ) 美術文化に関する鑑賞

「A表現」の項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理

（2）内容の改善

新学習指導要領　美術Ⅰ「A表現」

（1）絵画・彫刻

ア　感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想

イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

（2）デザイン

ア　目的や機能などを考えた発想や構想

イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

（3）映像メディア表現

ア　映像メディアの特性を踏まえた発想や構想

イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

新学習指導要領　美術Ⅰ「B鑑賞」

（1）鑑賞

ア　美術作品などに関する鑑賞

(ｱ) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした絵画・彫刻に関する鑑賞

(ｲ) 目的や機能などを考えたデザインに関する鑑賞

(ｳ) 映像メディアの特性を踏まえた表現に関する鑑賞

イ　美術の働きや美術文化に関する鑑賞

(ｱ) 美術の働きに関する鑑賞

(ｲ) 美術文化に関する鑑賞

（2）内容の改善

〔共通事項〕

(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　造形の要素の働きを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解すること。

（2）内容の改善

〔共通事項〕について

感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し，表現や鑑賞の学習に共通に必要となる資質・能力を育成する観点から，生徒が多様な視点から造形を豊かに捉えることができるよう，造形的な視点を豊かにするために必要な知識を〔共通事項〕として新設した。表現及び鑑賞の活動を通して，造形的な視点について実感を伴いながら理解し，造形を豊かに捉える多様な視点をもてるようにすることを重視している。

（2）内容の改善

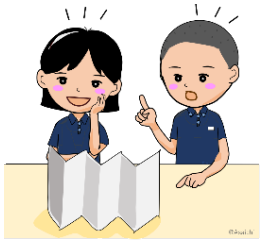
〔共通事項〕について

高等学校芸術科（美術）における造形的な視点

造形を豊かに捉える多様な視点

形や色彩，材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える視点

木を見る視点



全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉える視点

森を見る視点

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　造形の要素の働きを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解すること。

（1）目標の改善

工芸Ⅰの目標

工芸の幅広い創造活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，美的体験を重ね，生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

（1）対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて制作方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。

思考力，判断力，表現力等

（2）造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，工芸の働きなどについて考え，思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり，価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

学びに向かう力，人間性等

（3）主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，工芸の伝統と文化に親しみ，生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

（2）内容の改善

新学習指導要領　工芸Ⅰ「A表現」

（１）身近な生活と工芸

ア　身近な生活の視点に立った発想や構想

イ　発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能

（２）社会と工芸

ア　社会的な視点に立った発想や構想

イ　発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能

新学習指導要領　工芸Ⅰ「B鑑賞」

（１）鑑賞

ア　工芸作品などに関する鑑賞

(ｱ) 身近な生活の視点に立った工芸作品に関する鑑賞

(ｲ) 社会的な視点に立った工芸作品に関する鑑賞

イ　工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する鑑賞

(ｱ) 工芸の働きに関する鑑賞

(ｲ) 工芸の伝統と文化に関する鑑賞

「A表現」の項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理

（2）内容の改善

新学習指導要領　工芸Ⅰ「A表現」

（１）身近な生活と工芸

ア　身近な生活の視点に立った発想や構想

イ　発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能

（２）社会と工芸

ア　社会的な視点に立った発想や構想

イ　発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能

新学習指導要領　工芸Ⅰ「B鑑賞」

（１）鑑賞

ア　工芸作品などに関する鑑賞

(ｱ) 身近な生活の視点に立った工芸作品に関する鑑賞

(ｲ) 社会的な視点に立った工芸作品に関する鑑賞

イ　工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する鑑賞

(ｱ) 工芸の働きに関する鑑賞

(ｲ) 工芸の伝統と文化に関する鑑賞

目次

1　新学習指導要領の改訂のポイント

2　芸術科（美術，工芸）における学習評価

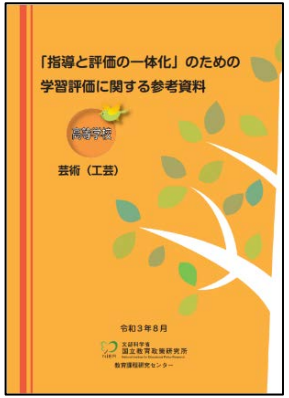
3　指導と評価の一体化のポイント

2. 芸術科（美術，工芸）における学習評価

（１）学習評価の考え方

（２）評価規準の作成について

芸術（美術）



芸術（工芸）

学習評価の改善の基本的な方向性

①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

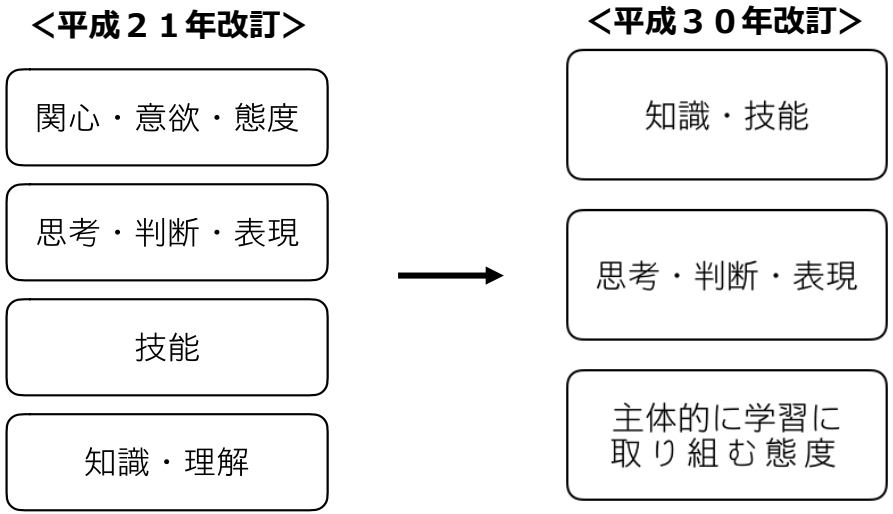
②教師の指導改善につながるものにしていくこと

③これまで慣行として行われてきたことでも，必要性・妥当性が
　認められないものは見直していくこと

（1）学習評価の考え方

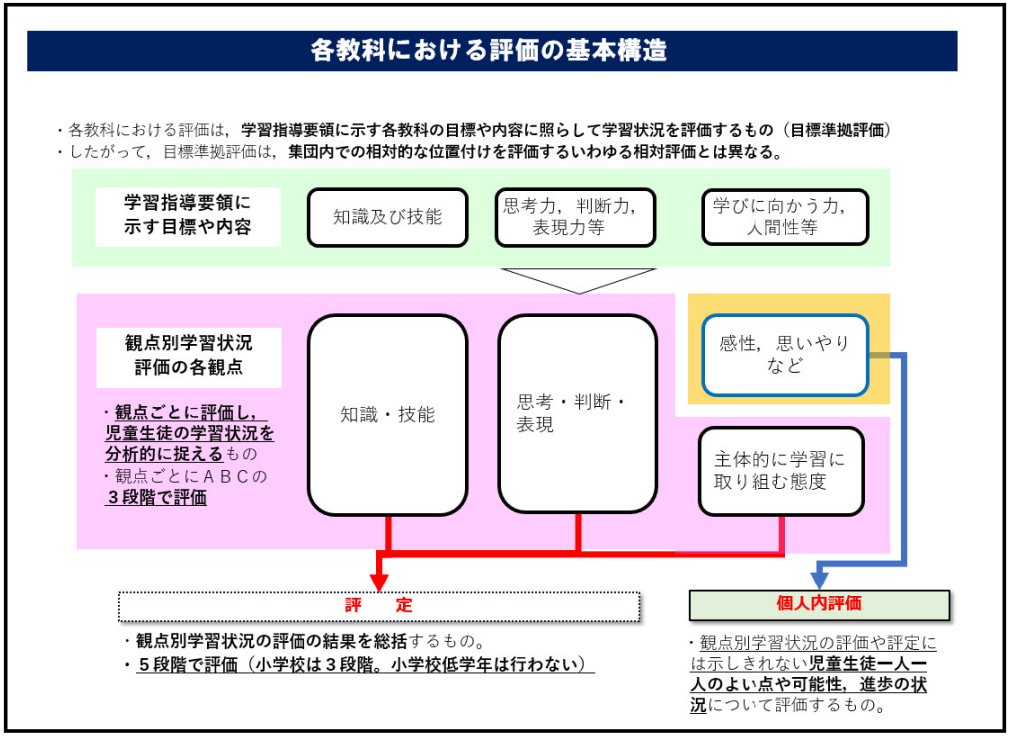
観点別学習状況の評価の観点の整理

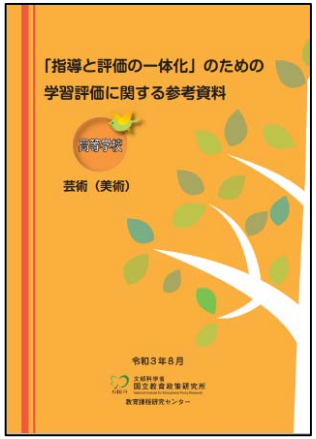
資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて，観点別学習状況の評価の観点については，小・中・高等学校の各教科等を通じて，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理。

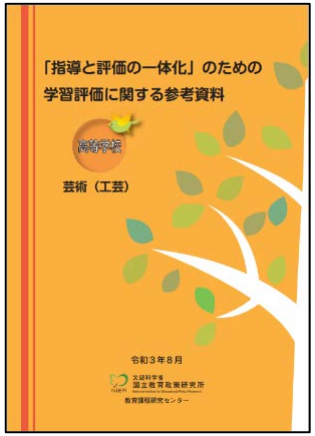


「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月　P６「図２」を基に作成

3. 指導と評価の一体化のポイント







「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校芸術（美術，工芸））令和３年８月P9

（1）学習評価の考え方

美術

学習指導要領と評価の観点との関連

領域等	項目と育成する資質・能力との関係	評価の観点
A 表現	(1)～(3) ア 発想や構想に関する資質・能力	「思考・判断・表現」 発
	(1)～(3) イ 技能に関する資質・能力	「知識・技能」（技能） 技
B 鑑賞	(1)鑑賞に関する資質・能力	「思考・判断・表現」 鑑
〔共通事項〕	(1)造形的な視点を豊かにするための知識	「知識・技能」（知識） 知

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校芸術科美術）令和３年８月 P.53

（2）評価規準の作成について

学習指導要領と評価の観点との関連

美術Ⅰ

【高等学校学習指導要領　第２章　第７節　芸術「第２款　第４　美術Ⅰ　１　目標」】

美術の幅広い創造活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，美的体験を重ね，生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり，価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

（高等学校学習指導要領 P. 147）

評価の観点の趣旨

各学年（又は分野）の学習指導要領の目標を踏まえ，観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの

（2）評価規準の作成について

学習指導要領と評価の観点との関連

美術Ⅰ

【「第２款　第４　美術Ⅰ」の評価の観点の趣旨（例）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表している。	造形的なよさや美しさ，表現の意図と創意工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり，価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

※高等学校芸術科（美術）の評価の観点において「知識・技能」は，「造形的な視点を豊かにするための知識」と「創造的に表す技能」とに整理していることから二つに分けて示している。また，「思考・判断・表現」は，「A表現」において育成する発想や構想に関する資質・能力と「B鑑賞」において育成する鑑賞に関する資質・能力とに整理しているが，発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力の育成を重視していることからまとめて示している。

評価の観点の趣旨

各学年（又は分野）の学習指導要領の目標を踏まえ，観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの

（2）評価規準の作成について

美術Ⅰ

芸術科美術における内容のまとまり

- 絵画・彫刻　「A表現」(1)，〔共通事項〕
- デザイン　「A表現」(2)，〔共通事項〕
- 映像メディア表現　「A表現」(3)，〔共通事項〕
- 作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」，〔共通事項〕

（2）評価規準の作成について

工芸Ⅰ

芸術科工芸における内容のまとまり

身近な生活と工芸　「A表現」(1)，〔共通事項〕

社会と工芸　「A表現」(2)，〔共通事項〕

作品や工芸の伝統と文化などの鑑賞　「B鑑賞」，〔共通事項〕

（2）評価規準の作成について

美術Ⅰ

(2) 美術Ⅰの「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

(ｱ) 「絵画・彫刻 「A表現」(1)，〔共通事項〕」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・表現方法を創意工夫し，主題を追求して創造的に表している。	・自然や自己，生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと，夢や想像などから主題を生成している。 ・表現形式の特性を生かし，形体や色彩，構成などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。	・主体的に絵画・彫刻の表現の創造活動に取り組もうとしている。

（2）評価規準の作成について

美術Ⅰ

	知識及び技能 ※
学習指導要領　2内容	〔共通事項〕 (1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解すること。

	知識・技能
内容のまとまりごとの評価規準　例	ア 造形の要素の働きを理解している。 イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。

知識・技能（知識）

※芸術科美術の知識を例に解説

（2）評価規準の作成について

学習指導要領の目標や内容との整合性を図る

「内容のまとまりごとの評価規準」(例)を，題材の評価規準の作成に活用する

「内容のまとまりごとの評価規準」（例）

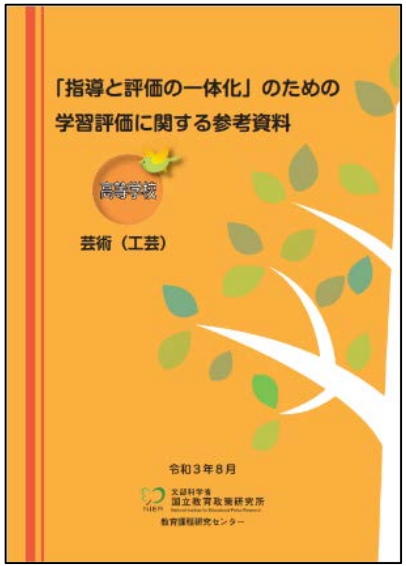
題材の目標や内容に応じて文言等を変更

題材の評価規準

（2）評価規準の作成について

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　芸術（美術），芸術（工芸）

芸術（美術）



芸術（工芸）

第３編
題材ごとの学習評価について（事例）

（2）評価規準の作成について

題材の評価規準の作成

・題材と関連する学習指導要領の目標及び内容や，内容のまとまりを確認する

・参考資料に示された，題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準」(例)を確認する

・「内容のまとまりごとの評価規準」(例)を基に，題材の内容に合わせて文言を変更したり，必要に応じて，複数の評価規準を一つにまとめたりするなどして，題材の評価規準を設定する

美術Ⅰ

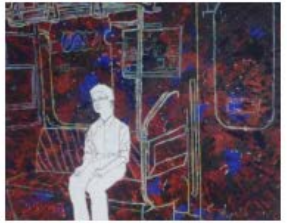
事例（美術Ⅰ）

人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～

＜生徒作品例＞

作品名「私と溶け合う」

作品名「迷い」



作品名「芯の確立」

内容のまとまり

「絵画・彫刻「A表現」(1)，〔共通事項〕」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」，〔共通事項〕」

（2）評価規準の作成について

工芸Ⅰ

題材の評価規準の作成

・題材と関連する学習指導要領の目標及び内容や，内容のまとまりを確認する

・参考資料に示された，題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準」(例)を確認する

・「内容のまとまりごとの評価規準」(例)を基に，題材の内容に合わせて文言を変更したり，必要に応じて，複数の評価規準を一つにまとめたりするなどして，題材の評価規準を設定する

事例（工芸Ⅰ）

人々の生活を心豊かに演出する～キャンドルスタンドの制作～

<生徒作品例>

作品名「夜釣りの友」　作品名「お祝いの明かり」　作品名「階段灯」

内容のまとまり

「社会と工芸「A表現」(2)，〔共通事項〕」及び「作品や工芸の伝統と文化などの鑑賞「B鑑賞」，〔共通事項〕」

（2）評価規準の作成について

美術Ⅰ

題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準」(例)

知

・ 造形の要素の働きを理解している。

・ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。

「人物像を見つめて描く」の題材の評価規準

知

形や色彩，材料，光などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などを基に， 全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。

事例（美術Ⅰ）

人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～

＜生徒作品例＞

作品名「私と溶け合う」

作品名「迷い」

作品名「芯の確立」

内容のまとまり

「絵画・彫刻「A表現」(1)，〔共通事項〕」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」，〔共通事項〕」

（2）評価規準の作成について

「人物像を見つめて描く」の題材の評価規準

美術Ⅰ

（2）第２編を参考に作成した「人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～」の題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
知 形や色彩，材料，光などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 技 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに，表現方法を創意工夫し，主題を追求して創造的に表している。	発 自己や他者などを見つめ感じ取ったことや考えたこと，夢や想像などから主題を生成し，表現形式の特性を生かし，形体や色彩，構成などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。 鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深めている。	態表 主体的に自分や家族，友人などの身近な人を見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の表したい人物像などについて考え，見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準，技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準，発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準，鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準，態表＝表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準，態鑑＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を，そのまま使用したり，具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。（下線部は変更箇所）

事例（美術Ⅰ）

人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～

＜生徒作品例＞

作品名「私と溶け合う」

作品名「迷い」

作品名「芯の確立」

内容のまとまり

「絵画・彫刻「A表現」(1)，〔共通事項〕」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」，〔共通事項〕」

（2）評価規準の作成について

「人々の生活を心豊かに演出する」の題材の評価規準

（2）第２編を参考に作成した「人々の生活を心豊かに演出する～キャンドルスタンドの制作～」の題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
知 形や色彩，素材，光などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 技 陶芸の制作方法を踏まえ，意図に応じて材料や用具を生かすとともに，手順や技法を吟味し，創造的に表している。	発 使う人の願いや心情，生活環境から生活を心豊かに演出するキャンドルスタンドを社会的な視点に立って発想し，使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え，制作の構想を練っている。 鑑 社会的な視点に立ってキャンドルスタンドの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と陶芸の制作過程における工夫や素材の生かし方，技法などについて考え，見方や感じ方を深めている。	態表 主体的に社会的な視点に立って使う人の願いや心情，生活環境から生活を心豊かに演出する表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 主体的に社会的な視点に立って作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の願いや制作過程における工夫などについて考え，見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

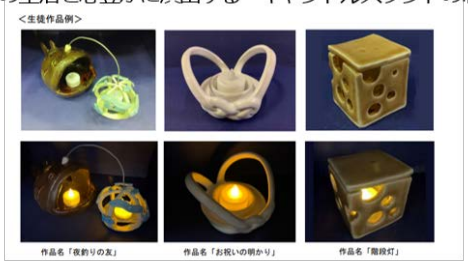
知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準，技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準，発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準，鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準，態表＝表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準，態鑑＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を，そのまま使用したり，具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。（下線部は変更箇所）

工芸
Ⅰ

事例（工芸Ⅰ）

人々の生活を心豊かに演出する～キャンドルスタンドの制作～



内容のまとまり

「社会と工芸「A表現」(2)，〔共通事項〕」及び「作品や工芸の伝統と文化などの鑑賞「B鑑賞」，〔共通事項〕」

目次

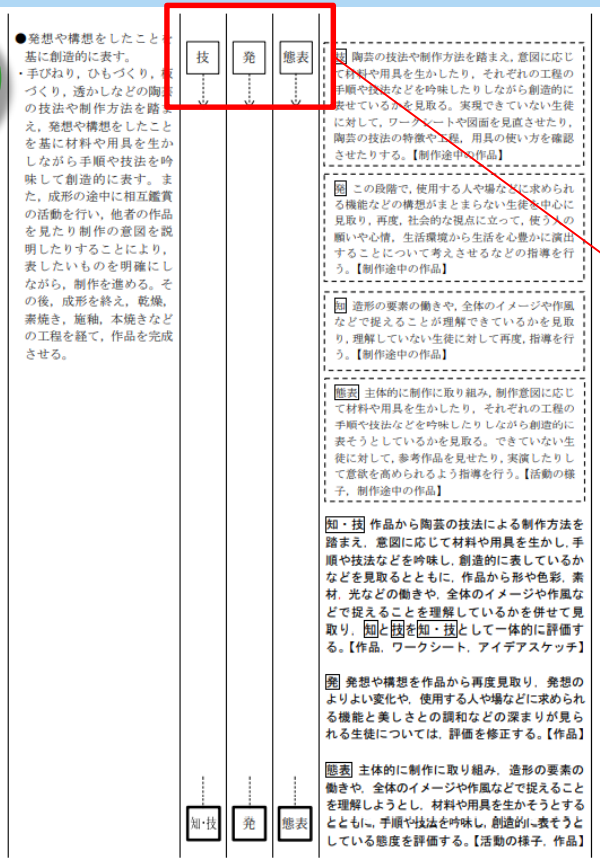
1　新学習指導要領の改訂のポイント

2　芸術科（美術，工芸）における学習評価

3　指導と評価の一体化のポイント

3. 指導と評価の一体化のポイント

工芸
Ⅰ

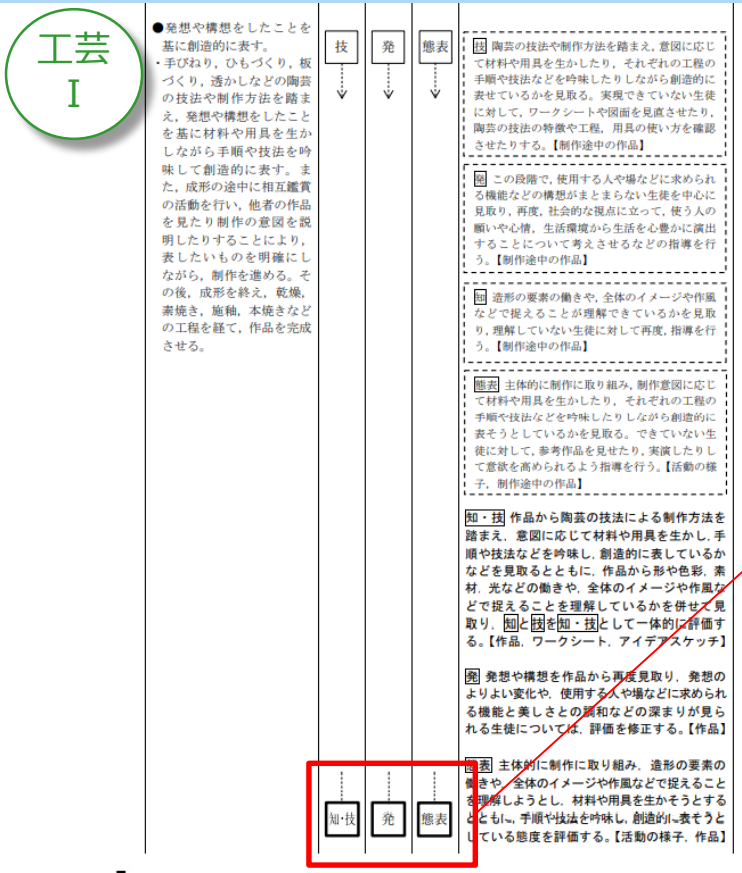


生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

授業の中で評価規準を通して，生徒の学習の実現状況を見取り，生徒の学習の改善や，教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」

芸術（工芸）事例
「人々の生活を心豊かに演出する
～キャンドルスタンドの制作～」
（工芸Ⅰ）

3. 指導と評価の一体化のポイント



生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」（授業内での評価を再確認するための評価も含む）を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。

芸術（工芸）事例
「人々の生活を心豊かに演出する
～キャンドルスタンドの制作～」
（工芸Ⅰ）

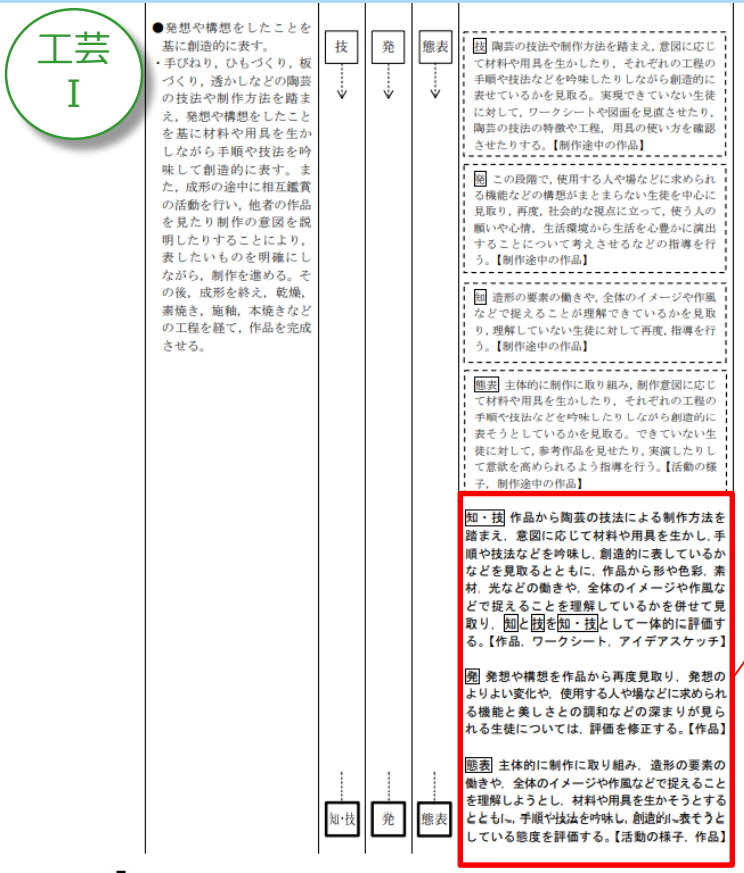
3. 指導と評価の一体化のポイント

生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

授業の中で評価規準を通して，生徒の学習の実現状況を見取り，生徒の学習の改善や，教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。

芸術（工芸）事例
「人々の生活を心豊かに演出する
～キャンドルスタンドの制作～」
（工芸Ⅰ）

3. 指導と評価の一体化のポイント

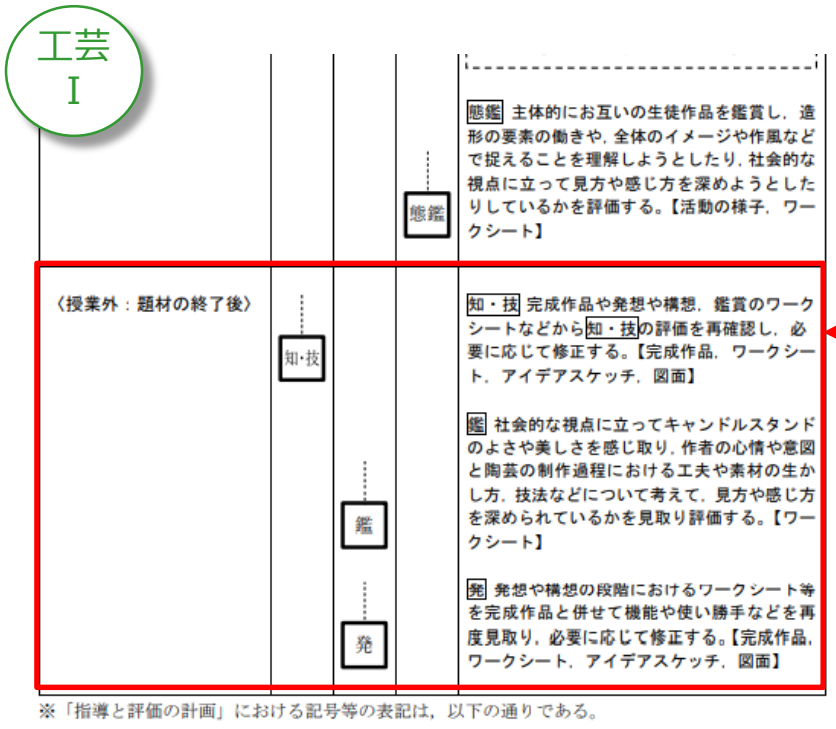


生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等について示している。また，【 】は，評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を示す。

芸術（工芸）事例
「人々の生活を心豊かに演出する
～キャンドルスタンドの制作～」
（工芸Ⅰ）

3. 指導と評価の一体化のポイント



生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

授業外
題材終了後

芸術（工芸）事例
「人々の生活を心豊かに演出する
～キャンドルスタンドの制作～」
（工芸Ⅰ）

美術Ⅰ

各観点の評価のポイント：「知識・技能」（知識）の評価

この観点は，表現及び鑑賞の活動を通して，「造形的な視点を豊かにするための知識」として，造形の要素の働きを理解することや，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解することについて評価するものである。

ここでの知識は，表現や鑑賞の学習場面において，学んだ知識を生かして，形や色彩，材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり，全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるようになるなど，単に暗記することに終始するような知識ではなく，美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが求められる。

美術Ⅰ

各観点の評価のポイント：「知識・技能」（技能）の評価

この観点は，造形的な見方・考え方を働かせて，発想や構想をしたことなどを基に表すために，意図に応じて材料や用具の特性を生かしたり，表現方法を創意工夫し，主題を追求したりして創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価するものである。

技能は，制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるものである。そのため制作途中の作品を中心に
完成作品からも再度評価し，生徒の創造的に表す
技能の高まりを読み取ることが大切である。

3．指導と評価の一体化のポイント

美術Ⅰ

各観点の評価のポイント：「思考・判断・表現」（発想や構想）の評価

この観点は，造形的な見方・考え方を働かせて，感じ取ったことや考えたこと，目的や条件，美しさ，映像メディアの特性などから主題を生成し，形体や色彩，構成，デザインの機能や効果，表現形式の特性，色光や視点，動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きなどについて考え，創造的な表現の構想を練るなどの発想や構想に関する資質・能力を評価するものである。

発想や構想は，制作が進む中で徐々に具体的な形になり，更にそこから深まることが多い。そのため発想や構想の場面だけでなく，制作途中の作品を中心に完成作品からも再度評価し，生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取ることが大切である。

美術Ⅰ

各観点の評価のポイント：「思考・判断・表現」（鑑賞）の評価

この観点は，造形的な見方・考え方を働かせて，美術作品や生活や社会の中の美術の働き，美術文化についての見方や感じ方を深めるなどの鑑賞に関する資質・能力を評価するものである。

題材によっては，鑑賞的な活動が位置付けられていても，それが創造的に表す技能や発想や構想に関する学習を深めるための活動であったり，主体的に学習に取り組む態度を高めるための活動であったりすることも考えられるため，活動のねらいを確認するなど評価規準の設定には留意する必要がある。

美術Ⅰ

各観点の評価のポイント：「主体的に学習に取り組む態度」の評価

この観点の評価対象は，生徒が「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」を身に付けようとしたり，発揮しようとしたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度である。

例えば表現活動では，発想や構想を練るためにアイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり，創造的に表す技能を働かせるために材料や用具の特性を生かしたり，表現方法を創意工夫し，主題を追求して創造的に表したりするような能動的な姿が授業の中で現れることがある。

3．指導と評価の一体化のポイント

美術Ⅰ

各観点の評価のポイント：「主体的に学習に取り組む態度」の評価

　また，鑑賞活動では，生徒が主体的に作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めようとしていく姿が見られることがある。

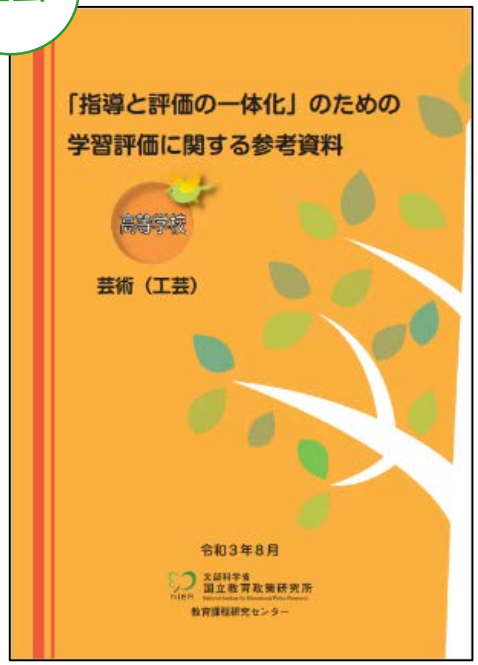
　評価を通して，表現活動においては，机間指導等の際にこのような試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり，よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善したりしていく様子などの姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切である。

3. 指導と評価の一体化のポイント

美術

芸術（美術）

工芸



芸術（工芸）

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
（高等学校　芸術科（美術，工芸））

文化庁
参事官（芸術文化担当）付 教科調査官
文部科学省
初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

平田　朝一